

JEAC4111-2021 の課題について

JEAC4111-2021 は、原子力施設の保安のための業務に係る品質管理に必要な体制の基準に関する規則および解釈の要求事項と一部異なるところがあり、規制活動や事業者の保安活動に適用するには以下の課題がある。

1. 新検査制度においてパフォーマンスベースの考え方を導入しているが、JEAC4111 においては QMS の継続的な改善に重点が置かれており保安活動の結果安全性が向上した結果を求めようになっていない。QMS の継続的改善は当然のこととして、実際の活動を質の向上（安全性の向上）を成果として得られる活動にしていくことが重要である。そのため、監視測定及び評価においては、成果（結果）に重点をおいていく必要がある。
2. 用語の定義は、規制要求との不整合、誤解や混乱を招くことがないように、原則として規則に合わせるべきであり、そこから ISO やその他規格の参照や民間規格としてのわかりやすさとして、解説や読み替えを行うようにする必要がある。
3. 特に、従来から品管規則で「実効性」を使用することにしたのは、上記 1 の観点から成果を得ることを主眼として、計画、管理及びその活動の評価を行うことを意味している。
4. 規則は、機能要求をしている部分があるため民間規格としては、事業者がより成果を上げられるような具体的な要求事項や方法等を記載する必要がある。例えば、一般産業用工業品の取り扱いについて。